

ネパールの児童教育支援事業のあらまし

NPO 法人福岡・ネパール児童教育振興会

理事長 篠隈 光彦

1. 小学校の開校



福岡博多東ライオンズクラブ30周年並びに福岡那の香ライオンズクラブ結成時の記念事業として、1998年着手したネパールの児童教育支援は、10年間の期間を設定、1999年7月「ふくおかニルマルポカリ小学校」と命名し、5教室（プラス職員室1室）、119名を受入れ開校しました。

福岡博多東ライオンズクラブ30周年並びに福岡那の香ライオンズクラブ結成時の記念事業として、1998年着手したネパールの児童教育支援は、10年間の期間を設定、1999年7月「ふくおかニルマルポカリ小学校」と命名し、5教室（プラス職員室1室）、119名を受入れ開校しました。

2. LCIF資金の獲得



福岡博多東ライオンズクラブの30周年は、福岡那の香ライオンズクラブの結成年でもあり、両クラブの共同事業の位置づけでスタート致しました。同時にネパールサイドのカウンターパートとして、ポカラ ガンダキライオンズクラブと提携し本事業を推進するフレームの中で、LCIFより10,000ドルの資金を獲得することができました。

3. 虹の図書館の建設



教育施設の一環として福岡鶴城ライオンズクラブより、結成30周年の記念事業として「レインボーライブラリー」を建設、寄贈いただきました。

4. 福岡私立幼稚園連盟のご協力



L尾上正史のお骨折りにより福岡市内121の私立幼稚園の子ども達が、ネパールの恵まれない友達のために2000年から毎年8年間、合計9,588,692円の募金をして本事業の達成のために、心あたたまるご協力を賜りました。

5. 教育施設の拡充



小学校はその後、幼稚教育を含め、中学生、高校生を受け入れる教室を増設し、合計12教室とすることができました。これにより、幼稚園クラス2教室、小学生クラス5教室、中学生クラス3教室、高校生クラス2教室となり、校名も「ふくおかニルマルポカリ中等学校」と改称されました。

※ネパールの教育制度は世界標準に比べて、2年間不足しています。

6. 年度別在校生数の推移

年度	男子	女子	合計
1999 創設	79	40	119
2000	95	51	146
2001	115	72	187
2002	107	78	185
2003	123	93	216
2004	137	96	233
2005	146	117	263
2006	148	122	270
2007	137	120	257
2008	140	96	236
2009	169	122	291
2010	189	135	324
2011	204	137	341
2012	198	129	327
2013	151	136	287

※ネパールでは、男性に対する教育意識と女性に対する意識にまだ差異があることがうかがわれます。

7. コーヒー栽培事業への着手



学校運営の自立を達成するための手段として、2003年からコーヒー栽培事業に着手し、2005年より3年間独立行政法人国際協力機構（JICA）の支援を得て、現在年間2,000kgのグリーンビーンの生産を達成しています。しかし、この生産量では、自立運営のための資金には遠く及びません。

8. ネパールコーヒー、日本市場に登場



生産量は少量ですが、キョウワズ珈琲株式会社、L一刈吉房のご尽力により福岡の大丸デパート、北九州の井筒屋をはじめ東京から九州にかけ、流通している姿はまさにライオンズクラブの成果であると思っています。

また、L松尾剛には、例年ギフトとして、ネパールコーヒーを取り上げていただき、さらに福岡博多東ライオンズクラブをはじめ多くのクラブに記念品として活用いただいていることに振興会として感謝致しているところです。



9. ネパール児童教育基金の創設



教育支援につきましては、10年間の全面支援を完了後、11年目から15年目まで奨学金として、年額30万円を支援、最終の場面で2013年5月「ネパール児童教育基金」を創設し、予定額500万円のうち250万円を基金としてスタート致しました。

10. ニルマルポカリ村あげての感謝のつどい

開校15年目を迎えるにあたり、教育基金を創設し、スタートしましたが、その折に日本福岡のライオンズクラブ並びに福岡ネパール児童教育振興会に対し、地域選出国會議員を含め村人約1000人に感謝の式典を開催していただきました。



11. カウンターパート、ポカラガンダキライオンズクラブメンバーとの歓談



ポカラをフィールドとして活動するガンダキライオンズクラブのメンバーと私。

12. JICA草の根技術協力事業（草の根パートナー型）

「ニルマルポカリ村コーヒー農家自立育成計画」採択



収穫したコーヒーを天日干ししているところです。

コーヒー栽培事業につきましては、現在グリーンベーンにして2,000kgの生産量にとどまっております。これを10,000kgに拡大するために2014年1月、独立行政法人国際協力機構（JICA）との契約を締結し、以後5年間の予定で目標を達成するべく努力してまいります。

事業の概要は次頁の通りです。

草の根技術協力（パートナー型）事業概要

I. 提案事業の概要	
1. 対象国名	ネパール連邦民主共和国
2. 事業名	ニルマルポカリ村コーヒー農家自立育成計画
3. 事業の背景と必要性	キョーワズ珈琲株式会社は NPO 法人福岡ネパール児童教育振興会 を介し、草の根協力支援型「ネパール王国カスキ郡ニルマルポカリ村コーヒー栽培による農業開発事業」を含めコーヒー販売を通じて当村を支援してきた。当村では、前回の事業によりコーヒー栽培が行われており、定期的にコーヒーの収穫作業がなされはじめている。村民がコーヒー栽培・収穫・精製・出荷までのプロセスを管理運営する事で、村の活路を見出そうという動きがあり今回の事業を推進する。生産技術能力・資金能力双方ともに当村は不足しており、それらを補えるよう当事業にてサポートする。
4. プロジェクト目標	ニルマルポカリ村コーヒー農業協同組合を中心として生産者が自主的、自立的にコーヒー生産活動を行う。
5. 対象地域	ネパール連邦民主共和国カスキ郡ニルマルポカリ村
6. 受益者層	ニルマルポカリ村のコーヒー農家約 280 世帯
7. 活動及び期待されるアウトプット及び活動	<アウトプット> 1. 持続的且つ発展的なコーヒー生産技術の習得をさせる。2. 組合の設立により、コーヒーの産業化を進める。 <活動> 1-1 ニルマルポカリ村コーヒー生産の現状と課題調査。1-2 コーヒー生産に適切な生育環境の指導。1-3 効率的なコーヒー生産方法の現場指導を通じたセミナー開催。1-4 各農家の生産状況のモニタリング。2-1 組合オリエンテーション。2-2 農民グループの形成・トレーニング。2-3 各グループ代表者による準備委員会の設置。2-4 準備委員会による事業目的と規約の作成。2-5 組合の所管政府機関への登録と運営開始 2-6 組合運営のモニタリング。
8. 実施期間	26 年 1 月～ 30 年 12 月（ 5 年 0 ヶ月）
9. 事業費概算額	45,375 千円
10. 事業の実施体制	<日本側>・専門家及び指導者派遣（長期・短期）：プロジェクトマネージャー/サブプロジェクトマネージャー/栽培技術/組織運営/業務調整等・資材：精製用機材・品質テスト用機材 <現地側>・カスキ郡コーヒー生産者委員会・コーヒー共同作業所・カスキ郡コーヒー生産者委員会所有施設・その他（コーヒー苗木/貯水用タンク等）
II. 応募団体の概要	
1. 団体名（提案自治体）	キョーワズ珈琲株式会社・NPO 法人福岡ネパール児童教育振興会
2. 活動内容	・キョーワズ珈琲株式会社：1）コーヒー・紅茶・ココアの製造および販売 2）輸入食料品（菓子・瓶缶詰・飲料 等）の販売 3）国産食料品の販売 4）上記に付帯する業務 ・NPO 法人福岡ネパール児童教育振興会： 1. 特定非営利活動に係わる事業 1）ネパールの中高等学校の運営についての助言及び資金提供などによる支援活動 2）国際交流のためのイベント企画、実施 3）ネパール国内の農業調査研究 4）会員情報誌及び対外情報資料の刊行による広報活動 5）その他、目的を達するために必要な事業活動 2. 収益事業 1）チャリティーコンサート興行事業 2）ネパール物産販売事業

http://www.jica.go.jp/partner/kusanone/partner/nep_17.html

1 3. 在福岡ネパール名誉領事館の開設



パールの学生が中国、韓国に次いで3位に位置する約1,000人が留学する状況となっています。

ライオンズクラブが着手したネパールの児童教育支援事業がきっかけとなり、2001年3月、福岡にネパールの名誉領事館が開設されました。

領事館の任務は、日本とネパール両国の平和と親善のために機能することにあります。ライオンズクラブでいう「戦の魔手より国を守る」という基本理念に沿うものでもあります。

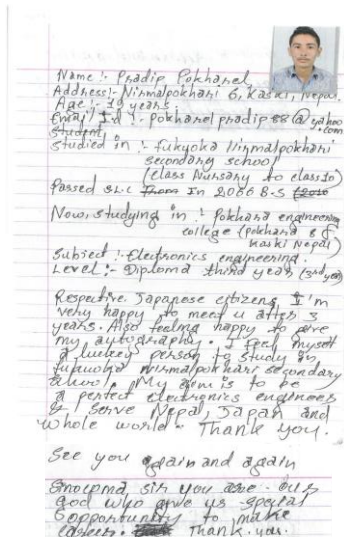
事業着手当時、つまり1998年の時点で福岡に在留するネパールからの留学生は10人を越えないレベルでしたが、現在福岡に在留するネ

1 4. ネパール国営テレビの特別番組として全国放映



ニルマルポカリ村の児童教育事業と自立運営の為のコーヒー栽培事業がネパール国営テレビに注目され、番組としてネパール全土を対象に放映されました。農業国ネパール、紅茶文化の国ネパールにあって、コーヒー栽培が新しい角度から受け止められる機会になった気配が感じられます。農業省の施策にコーヒーを主題にした事例が多くなっているところ

15. ふくおかニルマルポカリ中等学校卒業生との面談



ある卒業生から手紙が届きました。

《日本語訳》

名前 : プラディプ・ポカレル
住所 : カスキ郡ニルマルポカリ6
年齢 : 19歳
学歴 : 福岡ニルマルポカリ中等学校
中等試験合格 (S.L.C.)

ネパール歴2066年(西暦2009年)卒業
(現在)ポカラ エンジニアリングカレッジ
工学部 電気専攻 高等3年生

日本の皆様、偶然にも3年ぶりに再会できてとても嬉しいです。福岡ニルマルポカリ中等学校で勉強できたことは、私はラッキーだと思います。将来の目標は技術者になり、ネパール、日本と全世界で活躍することです。

何度も会いたいです。

篠隈さんは我々に素晴らしい機会を与えてくれるので神様のような存在です。

ありがとうございます。

私達がかかわった学校の卒業生が既に136人となっています。

現地訪問時に時々出会う卒業生がいて、彼らは、大学で勉強していたり、新聞記者になっていたりと、報道カメラマンとなって活躍している例があります。上記の手紙はそんな彼らのひとりから届いたものです。

このような偶然の再会もあり、今年の秋(11月を予定していますが)、現地を訪れ改めて卒業生に声をかけティーパーティを開催する計画を立てています。

会員の皆様にも声をかけますので、参加いただけるとうれしいのですが。

2014年7月

NPO 法人福岡・ネパール児童教育振興会
理事長 篠隈 光彦